

埋蔵文化財センターロビーでの資料展示

埋文センターが発掘調査した朽木の遺跡

## ハッケトンヤ遺跡

－ 那須郡那須町稲沢 －

ハッケトンヤ遺跡の発掘調査は、平成17年4月から8月までの5ヶ月間、国道294号稲沢バイパス建設に先立って行われました。

調査では、縄文時代中期の後半から後期前半（今からおよそ4,200～3,800年前）の家の跡（たてあなじゅうきょあと 竪穴住居跡）14軒や、ふかばち 深鉢形土器を ひつぎ 棺に使った子供のお墓（おくがいうめがめ 屋外埋甕）3基などが発見されました。また、シカやイノシシを捕るための落とし穴や、木の実を貯蔵するための穴、お墓と思われる穴などの様々な形の穴（どこう 土坑）が130基ほど見つかりました。

家の跡や穴からは、たくさんの縄文土器のほか、弓矢につけるせきぞく 石鏃や携帯用のナイフとして使ったいしさじ 石匙、木を切り倒したり加工するためのませいせきふ 磨製石斧、土掘り用のだせいせきふ 打製石斧、木の実などを割ったり磨りつぶすためのいしざら 石皿やすりいし 磨り石などの石器が出土しました。

このほか、そうしんぐ 耳飾りや腕輪などの装身具、どぐう 土偶やせきぼう 石棒などのマツリの道具も出土しました。



ハッケトンヤ遺跡の位置

## 複式炉

縄文時代中期後半（今からおよそ4,200年前）、栃木県北部では<sup>たてあなじゅうきよ</sup>竪穴住居に東北地方南部を中心に発達する<sup>ふくしきろ</sup>複式炉と呼ばれる<sup>どくとく</sup>独特な炉（いろり）が作られます。

14号住居跡の複式炉は、<sup>どきまいせつぶ</sup>土器埋設部（土器を埋めた部分）、<sup>いしぐみぶ</sup>石組部（石を組んだ部分）、<sup>ぜんていぶ</sup>前庭部（石で区画したくぼんだ部分）に分かれており、本場の複式炉に非常によく似ています。

石組部で火を燃やして炭火を作り、その炭火を土器の中に移して調理などをおこなったと考えられており、<sup>まき</sup>前庭部は薪をくべる所や入り口ではないかという説があります。

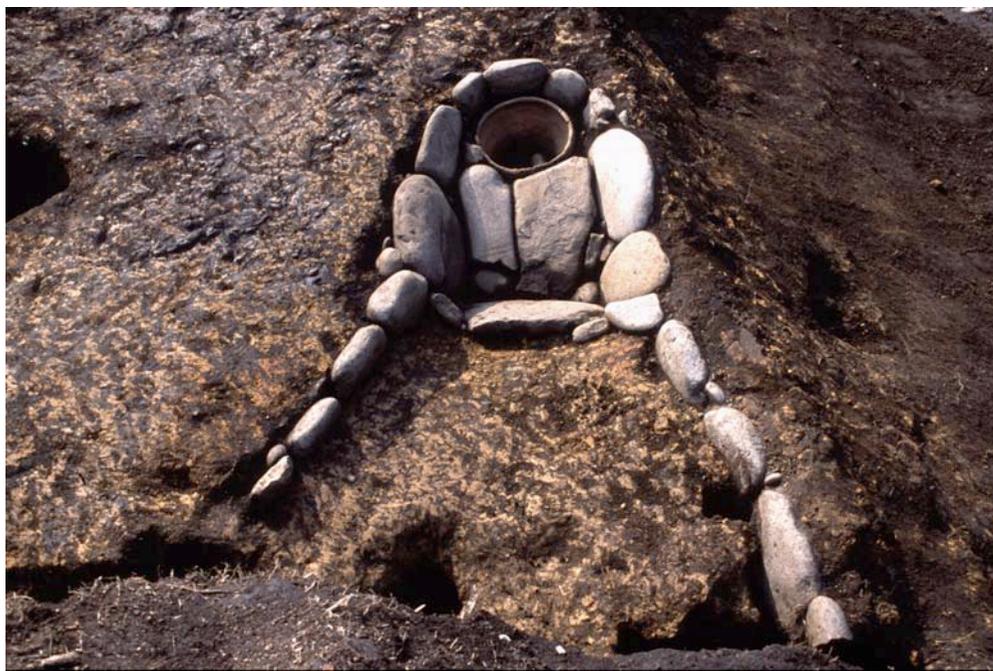
県内では、那須塩原市<sup>つきのきざわ</sup>槻沢遺跡や日光市<sup>なかうち</sup>仲内遺跡で、複式炉をもつ竪穴住居跡がたくさん発見されています。

## 屋外埋甕

縄文時代後期の初め頃（今からおよそ4,000年前）、東日本では<sup>ふかばち</sup>煮炊き用の深鉢形土器を<sup>ひつぎ</sup>棺に使った乳幼児のお墓と<sup>おくがいうめがめ</sup>考えられる屋外埋甕が発達します。

2号埋甕は、<sup>ちゅうこう</sup>深鉢形土器に<sup>あさばち</sup>注口付き浅鉢形土器を<sup>ふた</sup>蓋にした合わせ口のもので、この時期の

埋甕としては全国的にも珍しい例です。リン・カルシウム分析の結果、<sup>どきかんぼ</sup>土器棺墓であった可能性が高いと考えられます。



複式炉 (いろり)



埋甕 (子供のお墓)